

生活科学系コンソーシアム第 18 回会議 議事録

日時：平成 28 年 3 月 24 日（日） 11:00～12:30

場所：東京学芸大学 総合教育科学研究棟 3 号館 5 階 501 室

出席者：（敬称略）

コンソーシアム構成学会より連絡担当者計 12 名

国際服飾学会	山村明子
公益社団法人日本栄養・食糧学会	上原万里子
一般社団法人日本家政学会	杉山智美
日本家庭科教育学会	志村結美
日本消費者教育学会	柿野成美
公益社団法人日本食品衛生学会	井部明広
一般社団法人日本調理科学会	笠倉知子
一般社団法人日本繊維製品消費科学会	小柴朋子
生活経済学会	米山高生
一般社団法人日本保育学会	守随香
特定非営利活動法人日本栄養改善学会	武見ゆかり
公益社団法人日本食品科学工学会	飯島陽子

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員

小川宣子、塚原典子、香西みどり、沖田富美子、多屋淑子、倉持清美

欠席者：構成学会

日本衣服学会、日本食生活学会、服飾文化学会、

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員

薩本弥生、渋川祥子、都築和代、工藤由貴子、藤原葉子、本田由紀、永富良一、

片山倫子

資料

1. 出席名簿
2. 生活科学系コンソーシアム第 17 回会議議事録（案）
3. 入会申し込み書
4. 平成 27 年度活動報告案
5. 平成 27 年度決算報告案
6. 平成 28 年度年会費（予定）
7. 講師謝礼案
8. 平成 28 年度活動計画案
9. 運営委員一覧

10. 平成 28 年度予算計画案
11. 平成 28 年度行事予定記載様式
12. 構成学会の会長及び連絡係りの氏名および連絡先一覧

議題

1. 生活科学系コンソーシアム第 17 回会議議事録（案）（香西）

了承された。

2. 入会申し込み（小川）

生活関連の 29 の学会に生活科学系コンソーシアム系への入会案内を出し、4 学会から申込があった。今回は日本健康科学学会（1 口）、公益社団法人こども環境学会（1 口）の 2 学会の入会申し込みがあり、コンソーシアムの構成学会は計 19 になった。5 月のコンソーシアム総会にて承認される。

3. 平成 27 年度活動報告および決算案（塚原）

平成 27 年度活動報告案（会議、総会、シンポジウム、博士課程論文発表会・交流会、後援）について報告され、了承された。前倒しで HP の更新・改訂を行ったため当初の予算と違ったこと、今後は 50000 円で更新されることが報告された。平成 27 年度決算案については数字の差異が指摘され、会計担当の薩本委員（欠席）に確認・修正を依頼し、若干の変更があることが了承された。議題にはないが、平成 28 年 4 月 1 日時点での 19 学会の年会費（案）として口数 66（1 口 5000 円）が報告された。

4. 講師謝礼および交通費

これまでシンポジウムにおけるシンポジストに謝礼、交通費を渡していないことについて審議し、来年度（平成 28 年度）は現状のままとし、再来年度は構成学会の口数をみて交通費の支払いを検討することとした。このままでは繰り越し金が減少の一途であり、口数の増加など収入が増えたときに改めて考えることとなった。

5. 平成 28 年度活動計画案および予算計画案

第 19~21 回会議が 9 月、12 月、翌 3 月に予定される。総会は平成 28 年 5 月 17 日、シンポジウム・交流会は 12 月 22 日（木）文化学園大学（担当小柴、運営委員は服飾文化学会と日本食生活学会）、第 8 回生活科学系博士課程論文発表会・交流会は平成 29 年 3 月 22 日（水）あるいは 26 日（日）日本女子大学（担当塚原、運営委員は日本食品衛生学会と生活経済学会）が予定された。平成 28 年度予算計画案が説明され、決算との数字の差異が指摘され修正することとなった。

報告

1. 家政学分科会から（小川）

21 期のときに大学教育の分野別参照基準について、家政学の定義、内容を検討した。大学教育においても生活を創成する上で教養課程の中に家政学を取り入れるのが重要

であるとして「人と生活」を発行した。これに続いて現在は指導要領の改訂に向けて家庭科教育のあり方について検討しており、3つのWGで取り組んでいる。1Gは学習指導要領の見直し、2Gは指導内容の見直し、3Gは免許更新の見直しを行っており、9月をめぐりにまとめを行い、提示をして、11月にシンポジウム、翌1月に学術会議に出す予定である。

2. 生活科学系博士課程論文発表会の発表時間20分は短いという意見があり、発表の中に論文構成を入れることとした。また発表者に奨励賞の表彰を行うこととした。
3. 次回のシンポジウムの内容について構成学会に提案の依頼を行う。学会でも個人の意見でもよいので提案をしてもらい、総会のときに決める。
4. 構成学会の予定表作成を依頼し、総会のときに配布資料とする。5月10日までにメールで提出。様式およびアドレスはHPに掲載。
5. 生活科学系コンソーシアム名簿に新に4つの学会が加わり、構成学会に対し年会費請求が薩本委員から送られる。
6. 学位授与機構からのアンケート調査に生活科学系コンソーシアムとしての報告を行った。
7. 構成学会からの意見
 - ・シンポジウムのテーマについては家政系と離れている学会もあるので、他分野の人の話を聞くのもよいのではないかと。意外な発見があり、分野を越えた意見交換ができる。
 - ・孤食ではなく共食を進めるメーカーとして家庭科教育が大切であり、続けることが大事。
 - ・学会内で生活科学系コンソーシアムでは何を貢献してくれるかという意見がある。
 - ・メーカーが多く入っている学会であり、生活科学ということばのなじみが少ない。
 - ・一口5000円という年会費は学会費より安いのでは？
 - ・家庭科教育と食品を結びつけるのは産業とのつながりを考えると難しい。
 - ・関東に集中するとこじんまりとしてしまうので交通費を出すべきではないか。
 - ・会員の多くが現場にいて家政学への理解が少ない。
 - ・会員に（コンソーシアムを）もっとアピールする場があるとよい。研究分野が違っても一緒に活動できる。
 - ・実践領域での活動を行っており、学会のアピールはHPだけでは不足。
 - ・生活科学系コンソーシアムの後援をもらって学会での活動を行っている。分科会の3つのWGが興味深い。
 - ・家政学をもっていない大学にも家政学をやってほしい。